

国民的美少女女優が温泉盗撮被害。 美しすぎる裸体を披露！

「忙しい毎日だと思いますけど、休みの日とかはどうやって過ごしてるんですか？」

トーク番組の司会者が女優にそう尋ねた。

「そうですねえー。確かに、最近はほとんど休みがないです。有難いことに。でも、今度、お休みを頂ける予定なので、お母さんと一緒に温泉でも行こうかなって思ってます」

女優がそう答えた。

「温泉いいですねえー」と司会者が相槌を打つ。

「はい。そこでしっかりと疲れを取ってこようと思ってます」

女優が愛嬌たっぷりに笑みを浮かべながら言った。

田島信孝は、その様子をテレビで観ていた。

信孝は現在高校 2 年生の男子だ。

東京にある私立高校に通っている。

実は、今、テレビのトーク番組に出ている女優はクラスメイトだ。

同じクラスの深田愛佳がテレビ画面の中で楽し気に話をしている。

信孝が通っている高校には、芸能クラスがあった。

かなりカリキュラムにゆとりを持っているクラスで、クラスの中の大半の生徒は、芸能活動をしている。

信孝自身も、一応、芸能活動をしていた。
でも、実際のところ、芸能事務所に所属しているもののほとんど仕事はない。

月に1回か2回くらい、何かの撮影で呼ばれるくらいだ。

一方で、同じ芸能クラスの深田愛佳は、信孝とは大違いだった。

その姿をテレビで見ない日はないくらいだった。
ドラマには、途切れることなく出演している。

しかも、主役クラスのヒロイン役ばかりだ。

何社ものCMにも出演している。

バライティー番組のレギュラーも少しあったし、
今回の番組のような、単発の番組に出演することもある。

本当にテレビで観ない日はないくらいの忙しさだった。

深田愛佳はとてつもなくきれいだった。

少し狼っぽい顔をしているけど、きれいな瞳に、
端正な鼻と唇。

大人びた美しさもあるけれど、まだ高校生なので、
年相応の若々しい魅力もたっぷりある。

信孝がいる芸能クラスの中には、他にも芸能活動をしている人が大勢いる。

女子生徒はやはりかわいい女子ばかりだ。

その中でも、深田愛佳が一番美しかったし、華があった。

老若男女、誰からも愛着を持たれるような、まさに国民的な女優になりつつあった。

深田愛佳は忙しかったので、学校に来る日も限られていた。

朝に学校に来たと思ったら、午前中の内に仕事で早退することもあった。

逆に、6 時間目だけを受けに来るようなこともあったし、丸一日休み日も多かった。

信孝は、仕事が全くないので、芸能クラスにも関わらず皆勤賞だった。

信孝はそんな自分自身にあきれ返りつつも、国民的女優になりつつある深田愛佳と同じクラスになれたことを秘かにうれしく思っていた。学校の中で、信孝は深田愛佳と話をしたことはほとんどなかった。

それでも、深田愛佳とクラスメイトであるということは、信孝に満足感をもたらしていた。

「そういえば、愛佳ちゃんは、この前誕生日だったんですよね。おめでとうございます」

「ありがとうございます」

テレビの中のクラスメイトの深田愛佳が少し恥ずかし気にそう言った。

「何歳になったの、愛佳ちゃん」

「17歳です」

「うわー。若い。まだ 17 歳ですよ。うらやましい。これから、まだまだ楽しいこといろいろありますよ、きっと」

「はい。ありがとうございます。でも、今でも純分楽しいですよ」

「いやー、これからもっと楽しいことがありますよ。何て言っても 17 歳。華のセブンティーンですからねえー」

トーク番組の最後に、しっかりとドラマの宣伝をして、番組が終わった。

その翌日。

信孝が学校の教室に到着すると、深田愛佳が来ていた。

信孝は、今日は来ているんだなと思った。

昨日の晩、テレビで見えていた深田愛佳が、今はクラスメイトとして、自分のすぐ目の前にいることに、信孝はいまだに慣れていなかった。

朝から深田愛佳が登校してくるのは久しぶりだろうと、信孝は1人思っていた。

深田愛佳の周りに何人か女子生徒が集まってきて話している。

信孝は耳を澄ませてそれを聞いていた。

「愛佳ちゃん、久しぶりー」

「うん、久しぶりー」

「今日は1日学校にいるのー？」

「ううん。今日も途中で帰る。2時間目終わったらかなー」

「忙しいねー。やっぱり仕事ー？」

「うん。でも、明日は休みなんだよ」

「そうなんだー。休み、どっかに行ったりするの？」

「うん、ちょっとお母さんと日帰り温泉でも行ってこようかなって思ってる」

「いいねー、それー」

「それって、ちょうど昨日の番組で言ってたよねー」

「あ、私も見てたー」

「ありがとう。そうそう、昨日、言ってたやつだね。あれ収録したのは2週間くらい前のことだけど」

信孝は耳をダンボにして話を聞いていた。
この芸能クラスにいることの特権ではあった。
深田愛佳や他のタレント女子高校生たちの、
生の日常会話をすぐ近くで聞くことができる。
それで何かがあるというわけではないのだけれど、
誰もが聞ける内容ではないことは間違いない。
せっかく、この学校の芸能クラスに入ったのだから、
できる限り、深田愛佳の様子を盗み見て、
話を盗み聞くことに信孝は徹していた。

首都圏の、とある温泉がある施設。
ここは盗撮の穴場だった。
浴場が森の方向へ開けていて、何もさえぎるものがない。
目隠しの仕切りがないのだ。
目隠しの仕切りがない理由は、その森へ入る人は誰もいないからだ。
民家など何もないし、その森は完全に放置されている。
だから、その森の方向からの目隠しは作られていなかった。
森から、その露天風呂までは距離がかなり離れているということも目隠しがない理由の1つだった。
さらに、この温泉は町が運営する町営温泉だ

った。

旅館やホテルが運営している露天風呂ほど、覗きの対策がとられているわけではなかった。だから、そこは盗撮の穴場だったのだ。

森の中には、かなり苦労はするものの、頑張っていけば入ることはできる。

距離に関しては、望遠レンズがあれば解決できる。

望遠レンズを使えば、まるですぐ近くから撮影しているように撮ることだってできる。

さらに、大きなポイントとして、ここは基本的に日帰り温泉の施設だったということだ。

旅館やホテルなど、宿泊施設が併設されているわけではないので、この露天風呂に入る人は、ほとんどは、昼間に来て、入浴して帰っていく。

だから、入浴客が露天風呂に入るのは、朝から夕方にかけてまでだった。

夜遅くにここに入るに来る人は、ほとんどいなかった。

これは、盗撮犯にとっては、有難い状況だった。昼まであれば、太陽の自然の光が、女性客の裸体を照らし出してくれる。

鮮明に女性たちの裸体を撮影できるのだ。

ここで女性客の裸体を盗撮することは容易いものだった。

盗撮犯の男は、そういった盗撮の穴場をいくつか押さえていた。

そうやって盗撮した映像を、アダルトサイトで販売して、生活をしている者がいる。

この日も、この盗撮スポットに朝から忍び込み、盗撮を続けていた。

盗撮をずっと続けていると、男は女性の裸体に欲情しなくなっていた。

あまりにも多くの女性の裸を見慣れすぎていたからだ。

仕事として義務的にカメラを回していた男のレンズ越しに、2人の女性が入ってきた。

1人はかなり若い。

おそらく10代中盤から後半くらいの年齢だろう。

もう1人は、中年の40代くらいの女だった。

この2人は、たぶん母娘だろう。

盗撮犯はそう思いながら、レンズを若い娘の方に向けていた。

(まだ、体は華奢だがきれいな体をしてやがる)

男はそう思った後、少女の顔をしっかりと見た。そのとき、衝撃が走った。

瞼を2回ぱちくりとさせた。

(間違いない。これは絶対、あの女優に間違いない。本物だ。すごい。凄すぎる。美すぎる。これはとんでもないことになったぞ。でも、とにかく今は、あの子を撮ってやる。おっぱいも、陰毛もおしりもすべて容赦なく撮ってやるぞ。あの国民的アイドル女優のすべてを撮ってやるぞ)

「なー、あれガチなんかなー」

「あれって？」

「あれだよ、あれ」

『学園へ行こう！』というバライティ番組のスタッフが話していた。

この番組には深田愛佳がレギュラーで出演している。

今は番組の収録中で、司会の男や出演者たちがVTRを見ながら楽し気に収録を続けている。

深田愛佳の姿もそこにあった。

「あれってなんだよ？」

事情を知らない男の若いスタッフが、同じく男の若いスタッフに尋ねた。

「知らねえーのかよ。愛佳ちゃんの盗撮動画が出回りつつあるみたいなんだって」

「盗撮動画？」

「うん」

「盗撮って言ってもいろいろあるだろ。どういうやつ？」

「なんか俺が聞いたところではさあ、露天風呂の映像らしいんだよね」

「露天風呂！マジでそれ。ヤバくない」

「ヤバいと思う」

「愛佳ちゃんが露天風呂入ってるところってこと？」

「だと思う。なんか、もうすぐ雑誌とかに載りそうなんだけど、愛佳ちゃんの事務所がそれを止めようとしてるらしい」

「止められるのかなあ」

「さあー。そこは事務所の力だろうけど、止めら

れなかったら、その記事とか動画が世に出回るっばいぞ」

「出回ってくれた方が、もちろんうれしいけどな」

「まーな。でも愛佳ちゃん、割といい子じゃん。俺らみたいな下っ端にも一応、挨拶してくれるし。だからなあー」

「おいっ、お前ら。何しゃべってんだ。早く準備しろっ」

2 人の若い男のスタッフは、ディレクターにそう言われ、すぐに仕事に戻っていった。

その 2 日後。

雑誌『週刊モダン』の予告記事に衝撃的な文言が掲載された。

『深田愛佳、全裸入浴動画流出！！日帰り露天風呂で盗撮被害か！？』

予告には 1 枚の白黒写真が掲載されていた。

その写真は紛れもなく深田愛佳だった。

肩から上が映っている深田愛佳の姿で、確かに露天風呂っぽい背景だ。

この衝撃的な予告記事が全国に、全世界に駆けまわった。

確かに世の中に盗撮の事件は数多くある。

街中でのスカートの中を盗撮する事件や、更衣室を盗撮する事件、トイレを盗撮する事件や、風呂場や露天風呂を盗撮する事件など、日々、様々な盗撮事件が起こり、報道されている。

でも、この予告記事が本当ならば、今回、その

被害に遭ったのは、まだ 17 歳の現役女子高校生であり、国民的女優ともいえる深田愛佳ということになる。

その衝撃度は半端なかった。

男なら誰しも、美しい深田愛佳の裸を見たいに決まっている。

でも、本当に見れるのか、こんな誰もが知っている国民的美少女女優の裸を見てもいいのか。

全国の男たちは、そう思いながら、事件の詳細が明らかになるのを、股間を熱くしながら固唾をのんで待っていた。

深田愛佳と同じクラスの田島信孝はこの予告記事だけですでに何度もオナニーをしてしまっていた。

信孝の手元には、クラス写真がある。

4 月にクラス全員で撮ったものだ。

もちろん深田愛佳も映っている。

同じクラスの国民的美少女女優の深田愛佳が裸を盗撮されたかもしれない。

もうすぐ、その動画が公開されて、全国の、全世界の人に見られてしまうかもしれない。

深田愛佳は汚れ仕事なんてものは全くやっていない。

水着のグラビアもやったことがない。

そんな深田愛佳のすべてが公開されてしまうというのだろうか。

この手元にあるクラス写真に写っている深田愛佳が、とてつもない恥辱を味合わされようとしている。